

令和4年10月7日
全国米穀販売事業共済協同組合

「令和4年産米をめぐる米穀流通業界の苦境にご理解を（第3報）」について

今般の精米加工、輸送等にかかる諸経費の高騰、また原料代（令和4年産米）の高騰について、取引先である量販店、中・外食事業者等の皆様にご理解をいただきたく、添付の資料を作成し、下記関係業界団体にお届けしましたので、お知らせ致します。

記

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 チェーンドラッグストア協会
東京都米穀小売商業組合
公益社団法人 日本炊飯協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
日本生活協同組合連合会
一般社団法人 日本総菜協会
日本チェーンストア協会
一般社団法人 日本DIY・ホームセンター協会
一般社団法人 日本フードサービス協会
一般社団法人 日本フランチャイズチェーン協会
一般財団法人 日本米穀商連合会
一般社団法人 日本弁当サービス協会
公益社団法人 日本べんとう振興協会

註) なお本文中に登場する原料代は、産地・銘柄などによって大きくバラつきが生じるため、(平均ではなく)中央値を採用しております。

また「第2報」までと同様、流通諸経費は幅を持たせた値(最高-最低)を掲げておりますが、これは地域差が著しく影響していること、各社それぞれの企業努力によって抑えた結果も含んでいることにご留意ください。

令和4年10月

御中

全国米穀販売事業共済協同組合
理事長 木村良

令和4年産米をめぐる米穀流通業界の苦境にご理解を（第3報）

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、当組合の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご案内の通り、当組合こと全米販（全国米穀販売事業共済協同組合）は、米穀販売事業者およそ150社で構成する米穀流通の全国団体です。

その私どもから今年6月、「コメ諸経費高騰にご理解のお願い」と題する文書を発出させていただいたところ。また8月になって、引き続き「コメ流通諸経費にご理解を（第2報）」を発出させていただきました。

いよいよ令和4年産米（2022）価格の上昇が明らかになってきました。加えて流通諸経費の高騰もとどまることを知りません。当組合では、この機に改めて原料代や流通諸経費の高騰の現状を調査いたしました。その結果を、以下の通りお知らせさせていただきます。

米穀流通業界の苦境にご理解を賜りたく、お願い申し上げます。

敬具

【調査結果（要旨）】

令和4年産米 原料代・流通経費が前年同月に比べ増嵩した幅（当組合調べ）

| | | |
|-------|-----------------|--------------|
| 原料代 | ： 精米 1 kgあたり中央値 | 18.5 円 |
| 輸送費 | ： 精米 1 kgあたり | 0.5 ~ 4.1 円 |
| 電力代 | ： 精米 1 kgあたり | 0.31 ~ 4 円 |
| 包装容器代 | ： 精米 1 kgあたり | 0.3 ~ 1.5 円 |
| 人件費 | ： 精米 1 kgあたり | 0.45 ~ 2.5 円 |
| その他 | ： 精米 1 kgあたり | 0.01 ~ 1 円 |

合計：精米 1 kgあたり 20.07 ~ 31.6 円

以上の通り米穀流通業界は、原料代や流通諸経費の高騰の影響を被る厳しい環境に直面しております。私ども業界の窮状にご理解を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

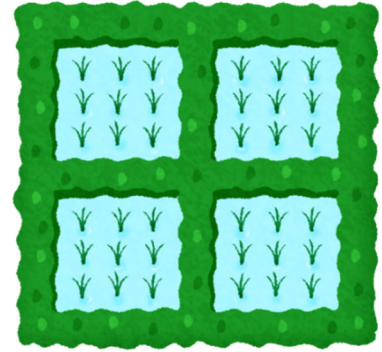
全国米穀販売事業共済協同組合

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 15-15 TEL:03-4334-2100 <https://www.zenbeihan.com>

【調査結果（詳細）】

原料代 精米 1 kgあたり+5~30 円

いわゆる概算金（仮渡金）と称される価格は、あくまで生産者や集荷業者の手取り水準ですから、私ども流通業者がその価格決定に関与することは出来ません。ところがこの水準が、確実に私どもの仕入価格に影響します。それによると令和4年産米の価格は、明らかな値上がり傾向にあります。その値上がり幅は、産地・銘柄ごと相当な差異があるため一概には言えませんが、当組合調べによると、精米 1 kgあたりに換算して前年比+5~30 円程度になります。



輸送費 精米 1 kgあたり+0.5~4.1 円

産地から精米工場、精米工場から量販店など販売店舗へと、輸送にかかる費用が必要になります。

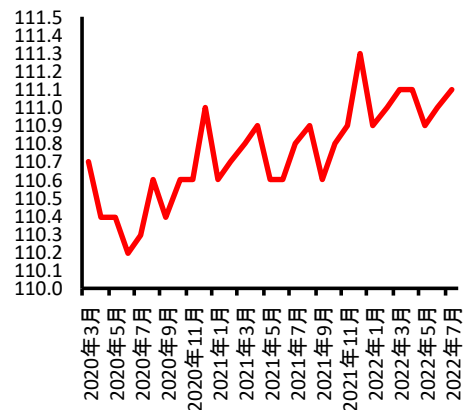
その輸送費、現在は落ち着いているように見えますが、それは値上げが一段落したからに過ぎません。

この輸送費の上昇、当組合調べによると、現状では精米 1 kgあたりに換算して前年比+0.5~4.1 円程度になります。これが今後、再び上昇局面に入ると言われています。一段落した原因が燃料費や人件費の高騰



を転嫁できていなかったことにあるため、転嫁が進めば当然、輸送費は再び上昇します。転嫁しやすい宅配便業界では一足先に上昇していることから明らかです。

道路貨物輸送価格指数



日銀調べ（2015年=100）

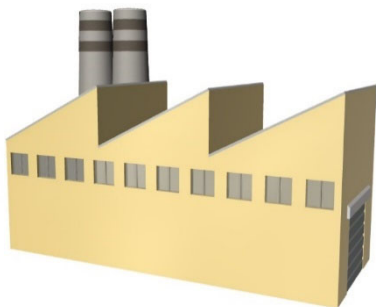
<https://www.boj.or.jp/statistics/>

電力費 精米 1 kgあたり+0.31~4 円

精米工場の運用には、相当な電力が必要です。

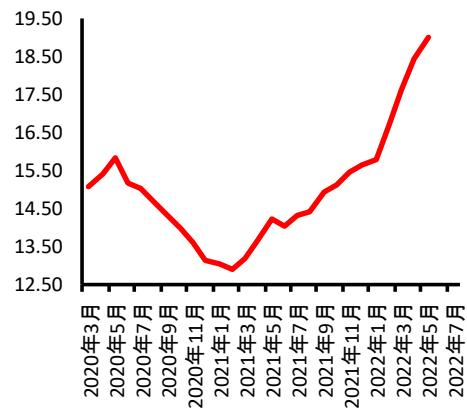
その電力、昨年初頭から、毎月1~5%の値上げが連続しており、今も続いています。

この電力費の上昇、当組合調べによると、現状では精米 1 kgあたりに換算して前年比+0.31~4 円程度になります。



もちろん今後も上昇が続く見込みです。いわゆる「第3の電力会社」の総崩れによって、電力各社とも強気の姿勢で、受け容れざるを得なくなっています。

電力費（法人向け高圧）



新電力ネット（円/kWh）

<https://pps-net.org/unit>

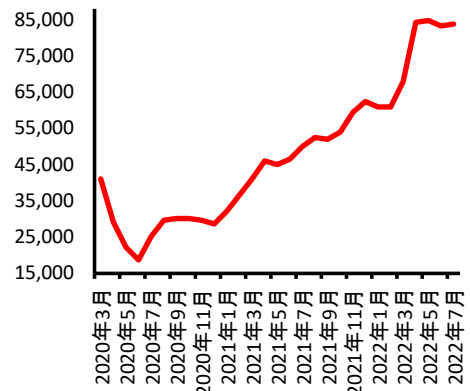
包装容器代 精米 1 kgあたり+0.3~1.5 円

精米の最終工程で、パッキング（包装）が必要です。つまり包装容器代がかかります。その米袋の価格は、主原料であるナフサの値動きに、ほぼ連動すると言われています。最近では下げに転じていますが、ここま



で急騰してきました。事実、某社は昨年7月の最初の値上げから今年8月まで6回にわたって米袋価格を値上げしており、値上げ幅は累積 57~67%に達しています。もちろん、これをそのまま受け容れてはいませんが、当組合調べによると、現状では精米 1 kgあたりに換算して前年比 +0.3~1.5 円程度になります。

ナフサ輸入CIF価格



財務省「貿易統計」(円/kg)

<https://www.customs.go.jp/toukei/info/>

人件費 精米 1 kgあたり+0.45~2.5 円

精米工場の運用に限らず、様々な場面で人件費が必要なことは、申し上げるまでもないでしょう。その人件費、最低賃金が右肩上がりなのは周知の通りです。地域別最低賃金の目安が今年、過去最大幅で引き上げられたところで、全国平均は961円に達する見込みです。人手不足はこの業界も共通で、人材の確保と賃

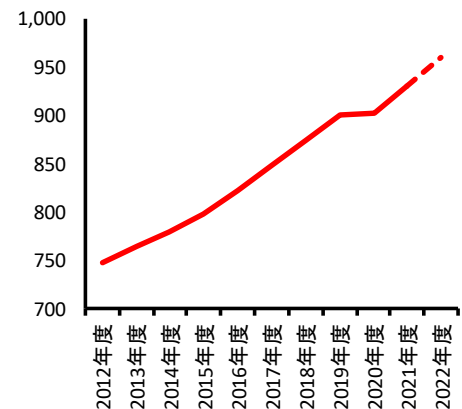


金上昇のいたちごっこに陥っているきらいがあります。

当組合調べによると、現

状では精米 1 kgあたりに換算して前年比 +0.45~2.5 円程度になります。もちろん、この上げ幅は今後、拡大する見込みです。

最低賃金



各年10/1現在、地域別全国平均、時給・円
厚生労働省調べ <https://www.mhlw.go.jp>

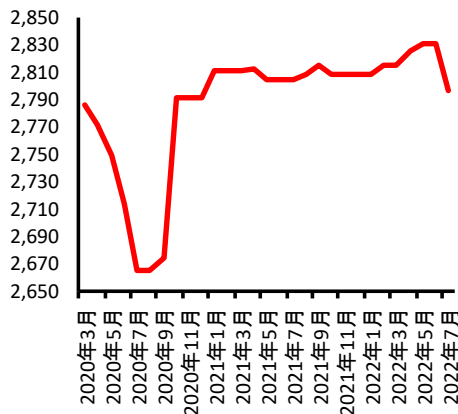
その他 精米 1 kgあたり+0.01~1 円

「その他」の内訳は、ガス代や水道代などです。当組合調べによると、これらをまとめ現状では精米 1 kg あたりに換算して前年比+0.01~1 円程度になります。

このうちガス代はコロナ禍からの景気回復により世界的に需要が増え、結果的に価格の上昇に繋がっています。

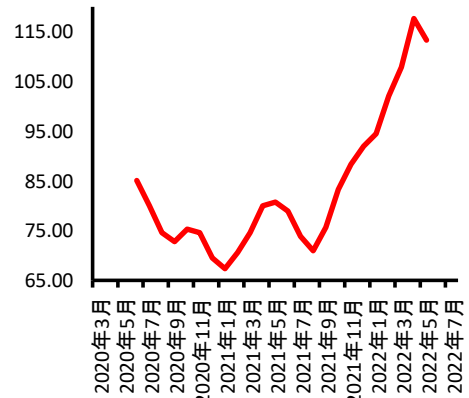
水道代の値上がりは、全く背景が異なります。我が国の水道設備の多くは高度経済成長期に整備したため老朽化が進んでおり、更新が必要です。その財源を水道料金収入から捻出しているものの、人口減少によって収入が減少しつつあり、結果的に単価を上げざるを得なくなっています。今は落ち着いているものの、早晩ふたたび上昇基調に入るのは確実です。

水道代 (全国平均)



総務省「小売物価統計」(円/㎥)
<https://www.stat.go.jp/data/kouri/doukou>

商業用ガス代(市場価格)



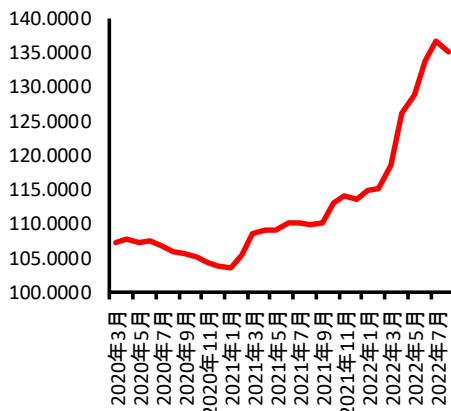
新電力ネット (円/㎥)
<https://pps-net.org/unit>

物価高騰要因 原油価格と為替レート

加えて直接的な経費ではないものの、物価高騰の要因となっている二つの要素についても指摘しておきます。

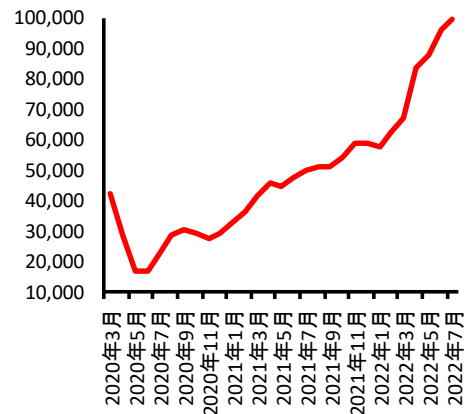
一つは原油価格。もともと需給ギャップがあったところへ、ロシアのウクライナ侵攻で拍車をかけ、しかも長期化しているのは周知の通りです。直近では少し低下しているものの、ウクライナ侵攻が続く限り底堅く推移するものと見込まれます。

為替レート



IMF (円/US\$)
<https://data.imf.org/>

原油輸入CIF価格



財務省「貿易統計」(円/kl)
<https://www.customs.go.jp/toukei/info/>

もう一つは為替レート。急速に円安が進行し、輸入原料価格の急騰を招いていますが、今後も日米の金利差が大きいファンダメンタルズに変化がない限り、この円安傾向は継続し、輸入原料価格の高水準は続くと見込まれます。